



駄菓子が結ぶ 地域のつながり

だかしやッホー

住所：大安町丹生川上 944 大安工業有限会社内 開店日時：毎週水曜 15：00 ～ 16：30
毎月第一日曜は貨物鉄道博物館前広場にも出店

母たちの手作り駄菓子屋がオープン

「ねえ、今何時？」「もう3時っちゃう？」
大安町丹生川上の大安工業有限会社の敷地内にある駄菓子屋の前には、開店を今か今かと待つ子どもたちの姿がありました。

ここは、1月にオープンした毎週水曜にだけ営業する「だかしやッホー」。丹生川地区に住む母親たち3人で立ち上げた手作りの駄菓子屋です。

同地区で小学生の子どもを育てる服部純子さんは、少子化が進み、地域行事が減っていくことで、地域のつながりが希薄になっていると感じていました。

また、全国各地で発生する災害の報道を見て、非常時に力

を発揮するのは、やはり「地域のつながり」だと感じるように。「近くに商店がなく、子どもたちが安心して買い物できる店がないこともあり、地域みんなの交流の場となる駄菓子屋を思い付きました」と服部さんは話します。

店名のヤッホーは、地区の神事「^{やほ}屋奉松明」をもじって名付けました。将来、子どもたちが自分の育った地域のことを思い出してくれたら、との願いが込められています。

オープン以降、買い物に来る子ども以外に、SNSを見た大学生がレジ打ちのボランティアに来てくれたり、老人会と交流したりと、多世代とのつながりが広がっています。

駄菓子を通した交流は始まったばかりです。



開店時間前にはたくさんの自転車が並び



「どれにしようかな」たくさんの駄菓子を選ぶ子どもたち



駄菓子を入れる紙袋は、不要になったカレンダーをいなべ市社会福祉協議会を通じて高齢者が作製

「ここに来て友達と遊ぶ機会が増えました」と話す出口結唯さん



interview

顔がわかる関係づくりのために 自分たちにできることから始めました



(左から)出口章代さん 阪口あずささん 服部純子さん

出口さん 私の子どもの頃は、近所に駄菓子屋がたくさんありましたが、今の子どもたちには、昔のような顔が見える関係がありません。ヤッホーを始めて、私自身も子どもたちの顔を覚えることができました。

阪口さん ヤッホーをやってみて、うれしいのは子どもたちの笑顔を見られること。自分で計算して、ぴったりと会計が合ったときの笑顔がかわいいです。

服部さん 地域ごとに抱える課題は違います。自分の地域で、自分のできることをやろうと始めました。ヤッホーで保護者同士が交流する姿も見られます。駄菓子を通して多世代の交流ができれば。